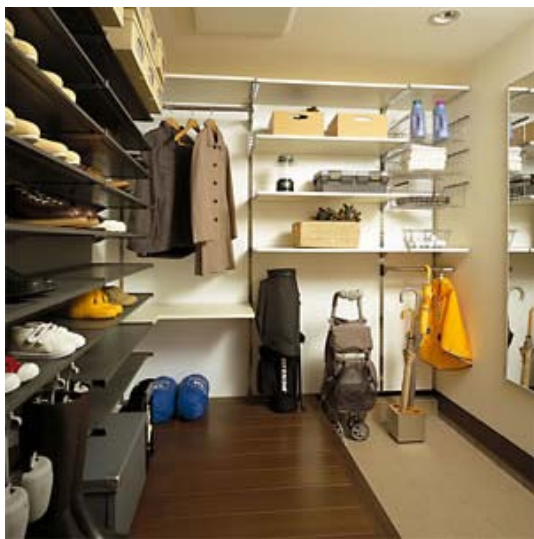


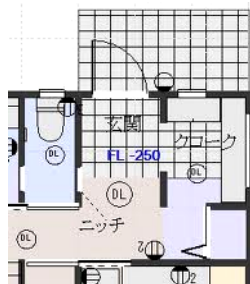
【基礎から学ぶ収納講座-③】

今回は部屋別に収納の工夫を紹介しました。今回は住まいの顔である玄関の機能性を高める「シューズクローク」の紹介をおこないます。玄関には家族全員の靴や趣味のスポーツ用品など何かとモノがいっぱいです。家の第一印象を決める大事なスペースですから、気持ちのいい空間に保っておきたいものです。

家の顔=玄関の収納を考えよう



雑然となりがちな玄関にはプライベート玄関兼シューズクローク（玄関収納）を検討してみてもいいでしょうか？シューズクロークを活用すると、生活感のあるモノを表に出さずに済み、スッキリとした玄関を保つことができます。



シューズクロークとは？

「シューズクローク」とは、玄関横などに設置する靴を履いたまま出入りできる収納スペースです。家族の靴やロングブーツ・サンダル、休日に使うアウトドア用品、スポーツ用品、子どもの遊び道具など玄関に散らかりがちな雑多なモノをたっぷり収納できます。

写真上…シューズクローク内には土間とロビーを設けて靴の脱ぎ履きがしやすいようにしましょう。
写真下…水や汚れに強い土間部分は、自転車や、雨に濡れたレインコートをしきっても気になりません。

では、シューズクロークをつくとどのようなメリットがあり、玄関の収納はどのように変わるのでしょうか？大きく分けると次の2点が考えられます。

1. 来客用と家族用の動線を分けられる

玄関の中に家族用玄関を作り、家族はシューズクロークを通して直接出入りするようになります。そうすると、家族は外から帰ったら靴や荷物・上着などをしまってからリビングへ、と自然に片付ける流れが生まれます。リビングの椅子やソファに上着を置いたままということもなくなるでしょう。メインの来客用玄関はいつもスッキリキレイに整頓された状態を保つことができ、急な来客に慌てて玄関を片付けることはありません。

2. 「見せる・見せない」のメリハリがつく

「見られたくないモノ」は玄関に入った時に視界に入らないよう、「見せたいモノ」は視界の中に入りやすい位置にと考えてみましょう。玄関横のシューズクロークに生活感のあるモノを収納してしまえばメインの来客用玄関はいつもすっきりと美しく保てます。



玄関ホールには花やオブジェを飾ってライトアップするなど、お客様を気持ちよく迎えるおもてなしの気持ちが感じられる空間演出をしましょう。

詰め込むだけの収納や、なんとなくスペースを確保しただけの収納では、せっかくシューズクロークを作ってもついつい散らかってしまいます。何をどれくらいおくのか事前に確認して、収納する場所・高さ等使いやすいように『適材適所』にレイアウトを考えておくことをお勧めします。



シューズクロークをシミュレーションしましょう

適材適所に効率よく収納し使い勝手のいいシューズクロークを実現するためには、きちんと持ち物の量を把握し、どこに何を収納するかシミュレーションしておきましょう。

玄関にあるもの	
お父さん	靴(5足),サンダル
お母さん	靴(7足),ブーツ(2足),サンダル,日傘
おばあちゃん	靴(5足),杖,日傘,帽子
息子	靴(3足),サッカーボール,帽子
そのほか	傘(5本),鍵,印鑑,靴べら,靴磨き,防災グッズ,家族用スリッパ,来客用スリッパ
シューズクロークに収納したいもの	
お父さん	ゴルフバッグ,釣り道具,
お母さん	ガーデニンググッズ,土
おばあちゃん	合羽,
息子	自転車,キックボード
そのほか	ペットフード,ほうき,掃除道具, BBQ道具,工具,上着
季節用品・今後収納したいもの	
お父さん	通勤用コート,ダウンジャケット,スキー道具,

玄関に置かれているモノ、シューズクロークに置きたいモノを書き出してみましょう。



- ① 普段履かない靴/季節物など
- ② 小物
- ③ ゴルフ・スポーツ道具など
- ④ よく履く靴
- ⑤ 子供用靴/掃除道具など
- ⑥ コート/靴/帽子など
- ⑦ 防災グッズ/小物など
- ⑧ 外で使うもの/灯油など

何をどれだけ収納したいか把握しましょう

今玄関まわりに置かれているモノや、シューズクロークを設置すれば収納したいモノを書き出してみましょう。

靴(スニーカー・ブーツ・サンダル等)、傘、靴磨き、カギ、スリッパ、ベビーカー、趣味用品(ゴルフバッグ・スキー道具等のスポーツ道具・折りたたみ自転車・ガーデニンググッズ等)、杖、掃除用具…とたくさん考えられます。

また、春夏秋冬、5年～10年後と時間軸をずらして考えてみてください。

冬は上着をどうするか、子供が大きくなってクラブ活動などの道具が増えたら、両親と同居することになったら…、収納するモノも変わってくるのではないのでしょうか？

収納をシミュレーションする

何をどれだけ収納したいのか書き出したら、次にやってみてほしいのが、シューズクロークのシミュレーションです。

あらかじめ荷物の量や動線をよくシミュレーションしておけば、荷物が入らなかったり、奥にあるモノを取りにいくためにわざわざ靴を履く事になったり…、などというような不便を感じることはないでしょう。

帰宅して、玄関の鍵をあけてから電気をつけ、荷物を置き、靴を脱ぎ、上着を掛け、スリッパに履き替える…リビングに入るまで、どこに触れてどこを通り、どこにモノをしまうのでしょうか。

動線に沿って無駄なく収納ができ、それぞれのモノの定位置が決められていると、自然と整理整頓の習慣もつき、モノが多いシューズクロークもスッキリと片付いた状態が保てるでしょう。

きれいに収まっていると、掃除も簡単になり一石二鳥です。収納したいモノの量やシミュレーションした内容をもとに、住宅会社の設計者に相談するといいでしょう。

詰め込むだけの収納や、なんとなくスペースを確保しただけの収納では、せっかくシューズクロークを作ってもついつい散らかってしまいます。

何をどれくらいおくのか事前に確認して、収納する場所・高さ等使いやすいように『適材適所』にレイアウトを考えておくことをお勧めします。



大容量の荷物が収納できるシューズクロークがあると、靴以外にもガーデニンググッズやアウトドアグッズなどが収納できて大変便利です。下記にシューズクロークを作るときのポイントをいくつかあげてみました。

シューズクロークを作るときのポイント

ポイントを押さえて、使い勝手の良い快適なシューズクロークを作りましょう。

姿見があれば外出前に全身の身だしなみチェックが

引戸なら普段は開けっ放しで来客時にさっと閉めればOK。ベビーカーや灯油などを出し入れする時にも便利

花や雑貨をディスプレイしておもてなしの演出を

洗い場があれば汚れたモノをサッと洗えて便利。子どもも忘れず手を洗える

—▶ お客様の動線

—▶ 家族の動線

新聞・郵便物の受け口を作ると旅行の時など防犯面でも安心

家族はシューズクロークを通過してから家の中へ。お客様とは動線を分けることで、メインの玄関はいつもスッキリキレイに

コートハンガーをつけると、室内にコートを持ち込まなくてすむ

土間とロビーを設けると靴の脱ぎ履きがやすく、裸足のまま荷物を取りにいける

棚板は紳士物の靴箱が置ける奥行きを考慮して棚板の高さは可変が便利

印鑑・靴磨きなどの小物用の引き出しがあると便利

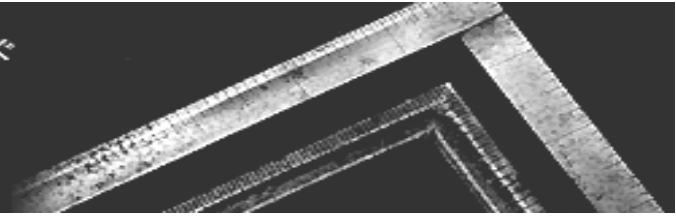
臭いや湿気対策には換気扇や小窓、エコカラット(*)などを

※ INAX製の調湿・吸着機能があるセラミックス内壁材です。

シューズクロークをうまく活用すれば、散らかることのないスッキリキレイな玄関が実現出来そうです。新築やリフォームの際に、ぜひとも検討されてみてはいかがでしょうか？

墨掛道具 すみかけどうぐ

はかる・しるす道具

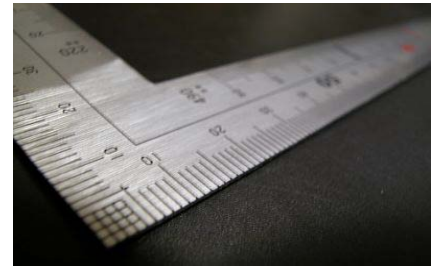


日本の木造建築の伝統のかげには、大工の肉体の一部となり、使い馴らされてきた多くの大工道具がありました。代表的な大工道具をとりあげ、解説します。

3 角度をはかる道具

1. 曲尺

曲尺と書いてサシガネ、カネジャク、マガリガネなどと読みます。L字型の直角定規に目盛りが刻まれた道具で、L字の長い辺を長手（長枝）、短い辺を妻手（短枝）と呼び、長手を垂直にした時に妻手が右側にある状態を表、その反対側を裏と呼びます。表には通常目盛り（表目）、裏目には、表目を $\sqrt{2}$ 倍した目盛り（角目）や円周率で割った目盛り（丸目）が刻まれています。

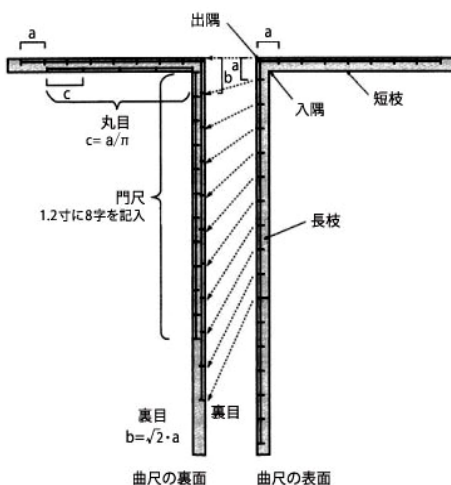


また、実用には使われませんが、一尺二寸を八等分した目盛りが「財、病、離、義、官、劫、害、吉」の文字とともに刻まれているものもあります（門尺・魯班尺）。

曲尺は、これらの目盛りと形状を利用して、物の長さや角度などを測り、部材に墨付けする時に使用する道具です。大工にとっては仕事をする上で欠く事のできない道具のため、敬意をもって扱ったといわれ、現場で踏もうものなら即座に怒鳴りつけられたそうです。

昔は鉄製や真鍮製でしたが、昭和初期ごろからステンレスがあらわれました。真鍮製には、直角部に三角形の鋼を添えて、直角の狂いを防いだものもあります（角鉄入）。

曲尺の中は通常5分（15mm）、厚みは約6厘（2mm）で、長手方向に弾力性があります。目盛りは基本的には寸目で、メートル法の施行によって一時強制的にセンチ目になりましたが、法の適用緩和により、以前からの尺寸法の曲尺も再び使うことができるようになりました。



【コラム：曲尺】

起源はかなり古く、中国では後漢の武氏祠石室のレリーフに伝説上の最初の皇帝・伏羲(ふっぎ)が曲尺をもつ様子が刻まれています。曲尺には10の用途があると言われています。直角や寸法をはかりとり、線を記す際の定規になることは言うまでもなく、勾配をはかる、直線を分割する、和算の勾(こう)爰(こ)玄(げん)の考え方を応用すれば乗除・開平・開立のための計算器としてもつかえるなど多機能な道具なのです。なかでも特筆すべきは裏目（角目）の機能で、表の $\sqrt{2}$ 倍の目盛りが裏面に刻まれており、直角三角形の斜辺が計算をせずに求められるようになっています。この機能は建物の隅を墨付けする際に非常に役立つのですが、わが国の大工は裏目を利用しながら隅の屋根材の複雑な納まりを解く技を極め、規矩(きく)術と呼んで高度に体系化しました。ただしその修得は困難を極めたようで、「大工と雀は軒で泣く」という言い回しはここからきています。